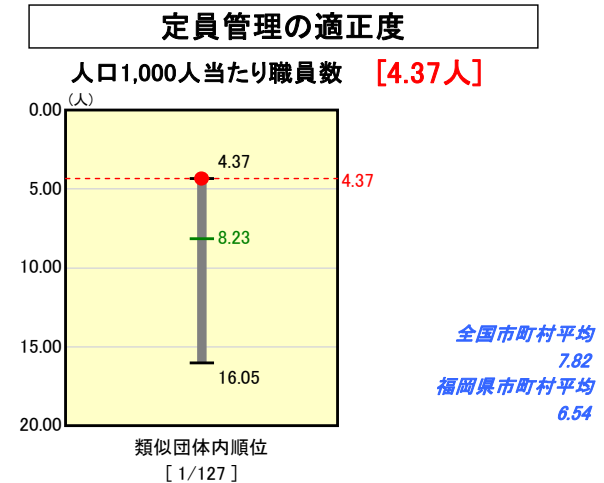
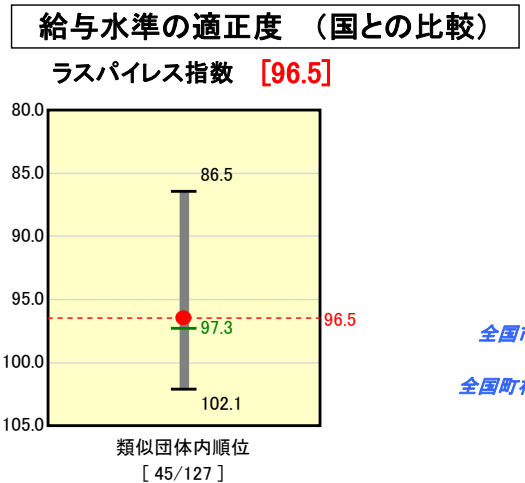
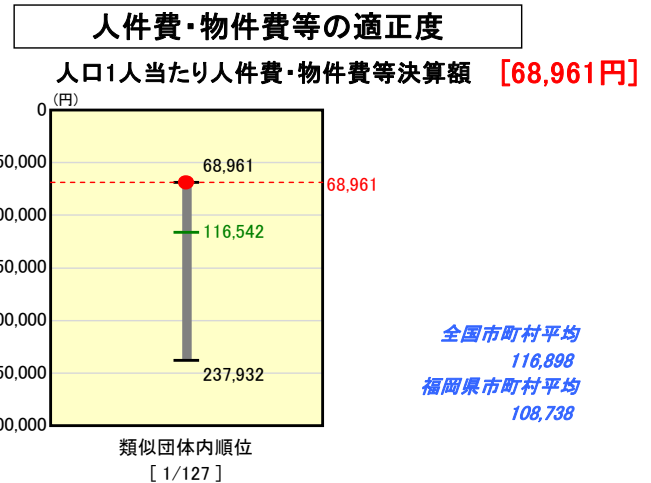
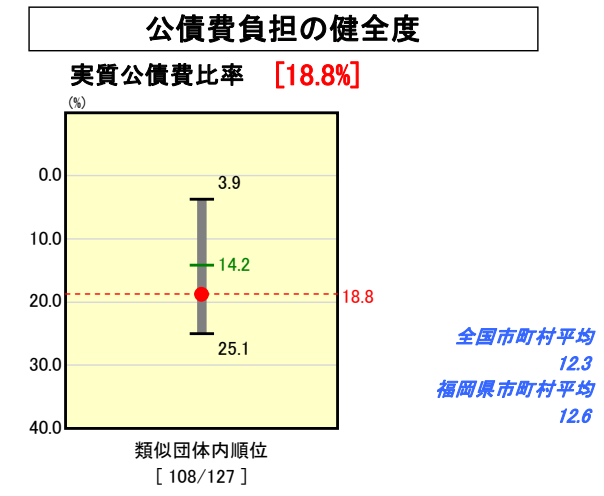
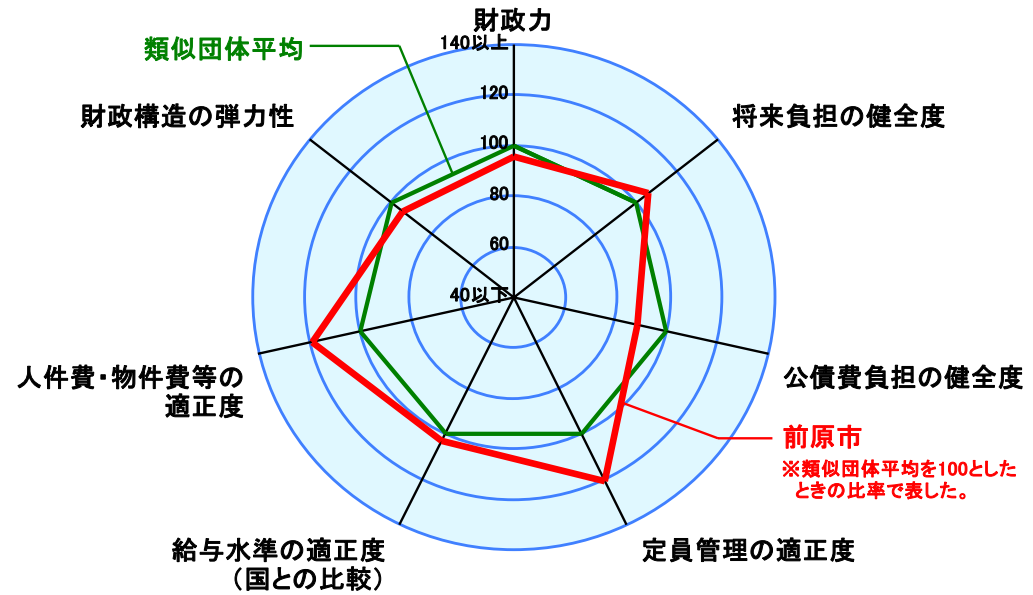
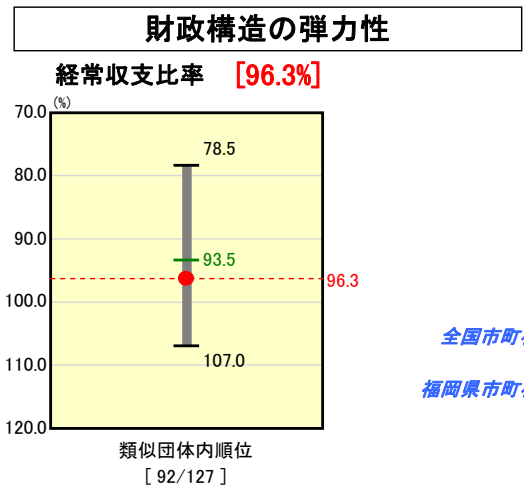
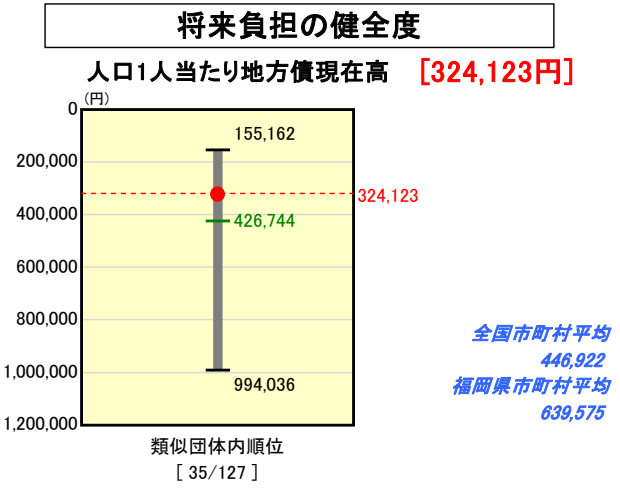
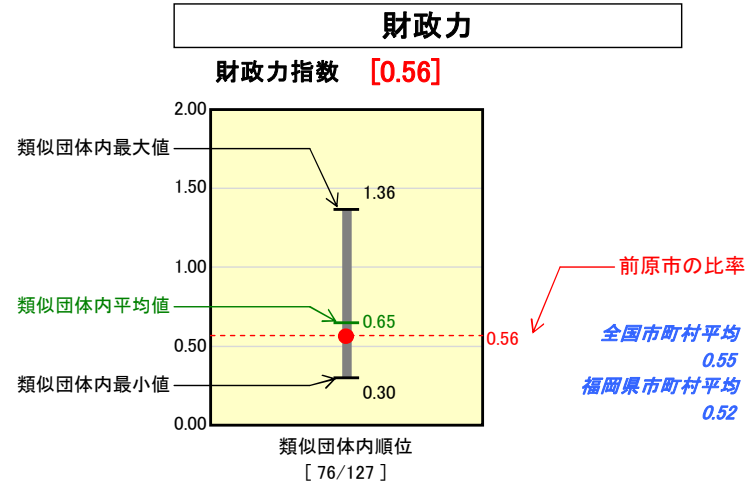


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

福岡県 前原市

| | |
|------|------------------------|
| 人口 | 69,126 人(H20.3.31現在) |
| 面積 | 104.50 km ² |
| 歳入総額 | 18,636,528 千円 |
| 歳出総額 | 18,141,252 千円 |
| 実質収支 | 495,276 千円 |



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

○財政力指数
類似団体の平均よりやや低い位置にある。法人事業所が少ないため一人当たり法人市民税額は県内都市では最低レベルであり、また一人当たり個人市民税や固定資産税も比較的低く、財政基盤が脆弱であるのが原因である。今後も引き続き、都市基盤の整備や企業誘致を推進していくことにより、法人税、固定資産税等の増収や雇用の創出による市内経済の活性化を図り自主財源の確保を目指す。

○経常収支比率
経常的一般財源等は市税については増加したが地方譲与税や普通地方交付税の減により減少、一方経常的支出では人件費や物件費は減少したが扶助費や公債費が増加し、全体として△0.8%の微減、経常収支比率としては歳出減が歳入減を上回り、昨年度より0.4ポイント改善したものの、依然高い比率となっている。職員数の削減等による人件費の抑制や高利率の市債の利率の見直し、物件費や補助費等の見直しなど経常的支出の抑制に努めているが、扶助費の増加や現在の不況下における市民税等の減収を考慮すると当面は指数の大幅な改善は見込めない。

○人口一人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体内1位にある。ごみ・し尿の処理、常備消防等を一部事務組合で実施しており、その経費がここに計上されないことがその要因の一つである。仮にこれらの経費を加えても上位であることにはかわりはないが、今後も物件費の削減

や人件費の適正化に取り組み、更なる健全化を目指す。

○人口一人当たり地方債現在高
ごみ・し尿の処理、常備消防等を一部事務組合で実施していることもあり、類似団体の中では上位にある。厳しい財政状況を鑑み投資事業を抑制しているため、今後も減少することが見込まれる。

○実質公債費比率
一部事務組合、公営企業会計繰出分の公債費財源や土地改良事業への債務負担行為が依然として多額であり、昨年度より1.0%上昇している。一部事務組合分や土地改良事業償還分については今後は減額の見通しであるが、公債費のピークを迎えており、下水道事業についても整備途中であることから今後も高水準となるが予想され、投資事業の抑制を図り、公債費適正化に取り組む必要がある。

○ラスパイルズ指数
職員給の削減により、類似団体中では比較的上位にある。今後も適正化を図り更なる改善を目指す。

○人口1,000人当たり職員数
類似団体内1位にある。今後も前原市行政健全化計画に基づき、市民サービスの低下を防ぎつつ適正化を図っていく。